

サポート

No. 207

令和7年3月24日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

祝卒業

久しぶりに雪の多い冬が終わりを告げ、県内特別支援学校では卒業式が行われました。今回はその中から、4校の卒業式の様子を紹介します。

視覚支援学校

令和7年3月6日（木）、時折やわらかな春の雨が降る中、視覚支援学校の卒業式並びに修了式を挙行了しました。今年度は、小学部1名、中学部1名、高等部普通科1名、高等部専攻科3名が、卒業・修了証書を授与され、学び舎を巣立ちました。

式辞の中で、渡部 透 校長は卒業生・修了生一人一人の名前を呼んで語り掛け、学校生活での姿と成長に触れ、今後の飛躍に向けて激励しました。そして、「これからの生活や仕事、人とのつながりを『当たり前』と思わず、『有難い』の感謝の気持ちをもち続けてほしい。『ありがとう』の気持ちは、皆さんの生活を豊かにする。」と、はなむけの言葉を贈りました。

「別れのことば」では、式辞に応えるかのように、卒業生・修了生の感謝の思いが語られました。幼稚部から14年間学んだ学校、臨床実習で出会った患者さん、学校生活を支えてくれた家族等に向けた、一人一人の「ありがとう」には、聴く者の胸を打つ力がありました。

送る側、巣立つ側の思いの込められた言葉が交わされ、学校全体が、卒業生・修了生の努力をたたえる気持ちと、新生活での更なる成長と幸せを願う気持ちで満ちた1日となりました。



【卒業証書授与】



【校長式辞】

（視覚支援学校 教頭 中村 素子）

栗田支援学校

令和7年3月6日（木）、春の訪れを感じる温かな日が差す中、栗田支援学校では午前中に小学部11名と中学部24名の卒業式を、午後に高等部普通科29名と高等部総合サービス科11名の卒業式をそれぞれ挙行了しました。

式では卒業生一人一人が卒業証書を受け取る前に、壇上で「よろこびのことば」を述べました。在学中の思い出や頑張ったこと、これからの抱負、これまで支えてくれた家族などへの感謝の気持ちを自分の言葉で堂々と話す姿は、列席した御来賓や保護者の方々の胸を打つとともに、在校生にとってもよき目指す姿となりました。

佐々木 孝紀 校長は式辞で、卒業生が歌い続けてきた校歌の歌詞について触れ、これからも自分の命を大切に、いつの日もさわやかに、すこやかに、おおらかに成長し、家族や地域のために頑張ってもらいたいと激励の言葉を送りました。卒業生はこの言葉をかみしめながら、最後は二部合唱による歌「旅立ちの日」と、校歌を声高らかに歌いました。そして、大きな拍手を受けて式場を後にし、希望を胸に学び舎を巣立っていきました。



【卒業証書授与】



【校長式辞】

（栗田支援学校 教頭 飯塚 正純）



ゆり支援学校

令和7年3月7日（金）、粉雪舞い散る中、令和6年度卒業式を挙行了しました。小学部7名、中学部12名、高等部16名、計35名の児童生徒が卒業を迎えました。近藤 千晴 校長から卒業生一人一人へ、「おめでとう」の言葉と共に卒業証書が手渡されました。一人一人がまっすぐな眼差しで卒業証書を受け取る姿に、各学部の最高学年としての凛々しさを感じました。

「よろこびのことば」では、卒業生からそれぞれの思い出や頑張ったこと、今後の夢などが語られました。そしてその結びには、高等部卒業生より、自分たちで作詞した『つながり』が披露（合唱）されました。



【卒業証書授与】

支え合う仲間との日々のあたたかさ 家族の愛に包まれて今がある
あふれるほどのこの気持ち 届け 心からありがとう
桜が咲き美しい日々が始まる 真実を知るのはまだこわいけど
16の力を合わせれば きっと良い未来になるから きっと良い未来になるから



【校長式辞】

式場中にこだまする気持ちのこもった大きな歌声に、感動と応援の気持ちでいっぱいになりました。

式辞で述べられた「卒業生の前途が穏やかで充実し、笑顔の花が咲きほこる日々」となることを心から祈りたいと思います。

（ゆり支援学校 教頭 佐々木 朋広）



大曲支援学校

令和7年3月7日（金）、秋山台に降り注ぐやわらかな光に春の訪れを感じながら、大曲支援学校では令和6年度の卒業式が行われました。今年度の卒業生は、小学部6名、中学部10名、高等部16名の計32名です。

卒業証書授与では、卒業生が壇上で阿部 純一 校長から卒業証書を受け取り、保護者や在校生、職員がその晴れ姿を温かく見守りました。

阿部校長は式辞で、卒業生に向けて、これまでの学校生活での頑張りを讃えるとともに、「卒業証書は、みなさんがこれまで、瞳かがやき、笑顔あふれる姿で頑張りと通した証明書です。これからも失敗を気にせず何事にもチャレンジしてってください。」とエールを送りました。また、今年度は、卒業生代表答辞として各学部の代表3名が、それぞれ在学中の思い出や卒業後の抱負の他、在校生や保護者に対する感謝の言葉を述べました。式に参加した卒業生、在校生とも、これまで過ごした仲間との思い出を振り返るとともに、未来の生活に思いを馳せ、瞳を輝かせていました。最後に、全員で卒業歌「瑠璃色の地球」と「校歌」を合唱し、卒業生の清々しい門出に華を添えました。

（大曲支援学校 教頭 北島 英樹）



【卒業証書授与】



【校長式辞】

お知らせ

全ての学校及び幼稚園・保育所・認定こども園等における交流及び共同学習の一層の推進を図るため、「交流及び共同学習にかかるガイド（改訂版）」を作成しました。

ガイドは学校や就学前教育・保育施設、各市町村等に配付している他、秋田県公式サイト美の国あきたネットにも掲載しています。交流及び共同学習の充実と指導・支援の際の参考資料として、ぜひ御活用ください。



インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

今回は、学校全体で特別支援教育を推進している秋田明德館高等学校の取組を紹介いたします。

「多様な生徒に応じた教育の推進」に向けた取組 ～秋田明德館高等学校～

本校の生徒の約6割は、入学前までに不登校を経験しており、また、特別な支援を必要とする生徒も約1割在籍しています。その他中途退学者、外国にルーツがあり、日本語の理解に困難を抱えている生徒など、多様な生徒に対しての対応が求められる学校となっています。

今年度本校では、学校経営の柱として「多様な生徒に応じた教育の推進」を掲げ、具体的な方向性として「特別支援教育の視点を生かした授業のユニバーサルデザイン化（明德UD※）の推進」を示しました。

具体的な取組として、今年度は職員会議の最後5分間で「ミニUD研修」を計8回実施しました。講師は本校の通級指導担当職員4名が行いました。

年度末に今年度の研修について職員アンケートを実施したところ、「授業への参加」「理解」について、授業実践に生かそうという意識が高まっていることが分かりました。特に「情報量の精選」「視覚刺激の調整」「視覚化」について、授業で意識するようになったという意見が多く出されました。

次年度は、それぞれの取組を共有する研修に加え、互見授業や校内の研究授業等での授業研修につなげていきたいと考えています。

※「明德UD」：本校の授業スタイルの基本としたいことについて、平成30年に策定した。



【演習では活発な意見交換が行われました】

明德UD

- 1 授業の目標が具体的に示されている
- 2 板書やプリントの文字の大きさ・行間・色・書くスペースに配慮がある
- 3 必要に応じて視覚補助教材が提示される
- 4 指示は短く具体的で、声の大きさや話す速さに配慮がある
- 5 生徒の発言の前に考える時間が十分にとられている

(秋田明德館高等学校 教頭 佐藤 大)

お知らせ

特別支援教育に関する研修や相談についての情報をまとめた「特別支援教育の研修・相談案内」が令和7年度版として更新されました。主な変更点についてお知らせします。

■「通常の学級実践研修」を6月以降も随時受け付けます

小・中学校等の通常の学級を対象とし、ユニバーサルデザインの視点による授業づくりや障害のある児童生徒に対する指導・支援などに係る実践的指導力の向上を図る研修です。

■小・中学校等特別支援チームが情報提供します

主に新任の特別支援教育コーディネーターがいる小・中学校等を対象とし、コーディネーターが校内支援体制づくりを進める上で必要な情報について、学校の現状を踏まえた情報提供をします。

令和7年度 特別支援教育の研修・相談案内	
※主な変更点 「通常の学級実践研修」について、6月以降も随時受け付けます。	
みんなで読む特別支援教育推進事業 切れ目のない支援体制充実推進事業	
研 修	■通常の学級実践研修 → p.3 【対象】小・中・高、義務教育学校の通常学級の担任
	■通級による指導実践研修 → p.4 【対象】小・中学校の通級による指導の指導員
	■特別支援学級実践研修 → p.5 【対象】小・中・高、義務教育学校の特別支援学級の担任
	■特別支援学校体験研修 → p.10 【対象】小・中・高、義務教育学校、高等学校の教員
	■その他の研修 → p.10 ・特別支援教育コーディネーターの定例研修会 ・特別支援教育支援員研修会 ・総合教育センターの公開講座、公開講座 ・障害児研究協議会→QOLの向上をテーマに 等
相 談	●特別支援教育アドバイザーによる相談・支援 → p.11 【対象】特・保・認定こども園等、保護者
	●小・中学校等特別支援チームによる相談・支援 → p.12-13 【対象】小・中・高、義務教育学校
	●高等学校特別支援チームによる相談・支援 → p.14 【対象】高等学校
	●特別支援学校のセンター機能の活用 → p.15-18 【対象】特・保・認定こども園等、小・中・高、義務教育学校、高等学校、保護者等
秋田県教育委員会	